

IAASB における ISA の一連の改訂の背景

- ・ 1990 年代にかけて国際的な大手会計事務所が監査方法の改善を重ね、いわゆるビジネスリスクアプローチと呼ばれる事業リスクの理解を重視する方法を採用するに至った。
- ・ そこで、国際監査・保証基準審議会 (IAASB) の前身である国際監査実務委員会 (IAPC) は、1998 年 10 月にビジネスリスクアプローチを検討するプロジェクトを承認した。
- ・ その後、米国公認会計士協会の監査基準審議会が同様のプロジェクトを 2000 年 8 月に開始したため、IAPC と米国公認会計士協会の監査基準審議会の合同プロジェクトとして実施された。
- ・ このプロジェクトは、米国、英国及びカナダの大手会計事務所、会計士協会及び学者による合同研究会 (JWG: Joint Working Group) による報告書 (2000 年 5 月公表) や、米国公認会計士協会の公共監視審査会 (POB: Public Oversight Board) の「監査の有効性に関する専門委員会 (The Panel on Audit Effectiveness)」による報告書 (2000 年 8 月公表) の影響を受けている。
- ・ JWG の報告書では、国際的な大手会計事務所によるビジネスリスクアプローチ採用の理由や既存の国際監査基準 (ISA) への改善提案が記載されている。一方、POB の報告書では、監査実務における近年の動向が公益を図るかどうかなどについて検討し、広範囲の提言を行っている。
- ・ これらのビジネスリスクアプローチの検討を受け、IAASB では、2003 年 10 月に ISA 315 「事業と環境の理解及び重要な虚偽表示リスクの評価」等を最終承認した。
- ・ 2000 年に証券監督者国際機構 (IOSCO) が国際会計基準 (IAS) を承認したことに伴い、欧州連合 (EU) を中心として ISA に対する関心が高まった。そこで、国際会計士連盟 (IFAC) は IAPC の改革を決定し、2002 年 4 月に IAASB へ改組した。
- ・ 2001 年 11 月に欧州会計士連盟 (FEE) より、2005 年までに EU における財務諸表監査を ISA に基づいて実施することが提案されたこと等から、2002 年には、いわゆる 2005 年問題が認識されるようになった。
- ・ この結果、IAASB において ISA を含む一連の基準が改訂されることとなった。そして、現在も複数のプロジェクトが進行中となっている。